

JACET関西支部

2025年度 第3回支部講演会

The JACET Kansai Chapter 3rd Lecture Meeting of the 2025 Academic Year

・第1発表 橋崎 諒太郎 先生（松山大学講師）

HASHIZAKI, Ryotaro PhD (Lecturer, Matsuyama University)

「発声が効く条件とは何か：シャドーイングと音読の活用方法に関する一考察」

What Conditions Enhance the Effects of Vocalization?
A Consideration of Effective Uses of Shadowing and
Reading Aloud



・第2発表 井狩 幸男 先生

（大阪公立大学非常勤講師、大阪市立大学名誉教授）

IKARI, Yukio PhD (Part-time Lecturer,
Osaka Metropolitan University,
Professor Emeritus, Osaka City University)

「脳科学からみたリスニング」



On Listening from the Viewpoint of Brain Sciences

Date: Saturday February 21, 2026, 15:20–17:00

Venue: online (Zoom)

Fee: JACET 会員は無料、非会員は参加費 500 円

JACET members (free of charge); non-members (¥ 500)

※事前申込要。※ Preregistration required.

申し込み:昨年度から Peatixを導入しています。以下のリンクにアクセス頂き「チケットを申し込む」をクリック、JACET会員は無料をお選びください。非会員の方は有料(500円)をお選び頂き、所定の方法でお支払いください。
申し込みリンク: <https://peatix.com/event/4797032>

* 当日のzoom URLは、Peatixより後日送られます案内をご覧ください。

お申込みは右のQRコードからでも可能です。

・発表言語:日本語, 質疑応答:日本語, 英語

・This lecture will be given in Japanese. The Q&A session will be bilingual.

☞ For more information, please visit the JACET Kansai Chapter Website <http://www.jacet-kansai.org>



第1発表 橋崎諒太郎先生(松山大学講師)

「発声が効く条件とは何か:シャドーイングと音読の活用方法に関する一考察」

シャドーイングや音読といった発声を伴う学習方法は、学校現場や英会話スクールを中心に幅広く活用されています。しかし、「具体的にどのような技能に効果があるのか」「どのような条件で実施すると学習効果が高まるのか」といった点については、現場の先生方でも迷われる場面が多いのではないかでしょうか。本講演では、先行研究の成果に加え、私自身が行ってきた実験研究や授業での介入実践の知見を踏まえ、効果的なシャドーイングや音読の実施方法、そして恩恵を受けやすい学習者の特徴などについて整理します。また、授業に取り入れる際の教材選定、難易度の調整、音声の指導など、実践的な観点からのポイントも具体的に紹介します。研究的根拠と現場の知見を統合し、発声活動をより効果的に活用するためのヒントを提示するとともに、皆様の授業でどのように生かせるかと一緒に考えていきたいと思います。

(講師紹介)

大阪経済大学で学士号を取得後、英会話スクールでの勤務を経て、名古屋大学大学院人文学研究科にて修士号・博士号(学術)を取得。専門は第二言語習得および英語教育で、特にシャドーイングや音読などの発声活動が英語学習に及ぼす影響を主な研究テーマとしている。実験や授業での介入を通してデータを収集し、統計的分析を行う研究に取り組んできた。近年は、発声が連語表現の学習や第二言語の発音にどのような影響を与えるのかについて検証を進めている。著書に『話すための進化系英語シャドーイング』があり、研究論文は Language Teaching Research, Journal of Asia TEFL, JALT Journal などに掲載されている。

第2発表 井狩 幸男先生(大阪公立大学非常勤講師、大阪市立大学名誉教授)

「脳科学からみたリスニング」

本講演では、リスニングに関して、応用言語学からみた知見とは別に、脳科学研究から得られた知見を基にリスニングの意味と役割を中心にお話しします。

教育現場でリスニングを行う際、わざわざリスニングの意味や役割を考えることはしません。しかし、リスニングの基盤を理解すると、リスニング活動の応用に繋がる可能性があります。

リスニングの基盤に関する要因を、4つの観点から考察します。まず、リスニング過程の説明で用いられるボトムアップとトップダウンの視点の検討です。次に、母語獲得と第2言語習得において観察されるfis現象と空耳に関する分析です。3つ目は、マガード効果に見られるリスニングの際の聴覚以外の知覚の影響に関する考察です。そして最後は、リスニングにおけるインプットとアウトプットの関係の再検討です。本講演を通して、リスニングの意味と役割について理解が深まれば幸いです。

(講師紹介)

母語獲得・第二言語習得のメカニズムを神経心理言語学の観点から研究。博士(文学)。著書：共著書『小学校外国語活動の進め方—「ことばの教育」として—』(成美堂)、『ことばと認知のしくみ』(三省堂)、監訳『子どもの認知と言語はどう発達するか』(松柏社)など。「生きたことばを習得するための英語教育-母語獲得と脳科学の研究成果を踏まえて-」(学位論文)。ことばの科学会副会長・会長、第1言語としてのバイリンガリズム研究会副会長・会長、外国語教育メディア学会早期英語教育研究部会会長、英語教育ユニバーサルデザイン研究学会顧問を歴任。現在、ヒトの言語活動について、同期、自己組織化、エントロピー、量子論の知見を踏まえ、脳科学、数学、物理学の観点から考察を行う。